

事業で、これらの増改築を計画してまいりたいというふうを考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） 上方修正は当然のことだろうと思いますし、市長の意欲もよしとしますが、市長、若い割に、いやに遠慮がちですね。この上昇のカーブを見たときに、やはり目標なんですから、目標は必ず達成しなければいけないと、目標の8割達成すれば大成功なんです。そのぐらいの気持ちで、60万ではちょっと腰が引けていますよ。私であれば、80万、100万を目指して、そして60万、70万、80万の実績をつくり上げていく。そのぐらいの気持ちで、ボーイズ・ビー・アンビシャスと言うんです。若者は大志を抱け。若いんですから、やりましょうよ。もう少し元気を出した目標を定めて、がんがんやって、結果が60万になればいいじゃないですか。60万を目指したら絶対そこを達成せにやいかんということじゃないんですよ。もう少し目標は大きなものを目指して、そして民間からの、その目標に向かった対馬市のやる気を見た民間が投資をしていく。そして、全体がグレードアップしていく。そういう姿勢でもう一遍考え直してくださいよ。

時間がありませんから、そこまで言いまして、後段は同僚議員に譲ります。ぜひ、ひとつ元気出してください。終わります。

○議長（小川 廣康君） 関連質問に入ります。清風会、15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 清風会、会派代表の関連質問といたしまして、通告に従い、韓国観光客の不満とその対策について、お尋ねをいたします。

平成11年、釜山・巖原間に国際航路開設がなされ、今年度で20年目を迎えることとなります。この間、海運会社は5社参入しており、旅行会社は20社に上ると聞き及んでいるところがあります。

昨年の入国実績は35万6,000人という急激な伸び率を示しているように見えますが、観光客の多くの方々は、決して対馬の印象はよく思っていないようなところもございます。このことに関して、9月定例会において、私は一部御意見を申し述べたところでありますが、今回は、さらに具体的な事柄について申し上げたいと存じます。

なお、発言の根拠は、現に観光事業に携わっておられる方々及び一般観光客の意見であり、真に今後、対馬の発展を願う思いからのことでもあります。

1つに、旅行社から日本本土の皆様と比較して、対馬の皆様の一部ではありますが、非常に冷たさを感じる場所があります。

次に、2つ目ではありますが、ツアーに初めて参加して島へやってきましたが、自然景観、釣り、登山以外に楽しむところが一つもない。

3つ目に、観光客の基本はショッピング、プラス食べ物が基本となりますが、食べ物に関しては、行くところが余りにも少な過ぎる。

4番目、大勢の観光客が来ているにもかかわらず、不足する事柄に島の方々の対応について努力の形跡が見受けられないのが、非常に残念である。

最後に、行政と民間の活力でいろいろなことを開発してほしいところではありますが、改善が伺えない状況がこのまま続けば、徐々に観光客の減少につながることを考えてあります。

これらの指摘は、先ほどの洲上会長の話と重複しておるところもございますが、大切なことは、対馬島民の受けるあり方、心構え、そして、対馬市がそれをどう引っ張っていかうとするか。こちらの勢いに私はかかっていると思います。

このことについて、市長の見解を求めたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 清風会、大浦議員の質問にお答えいたします。

御質問の内容、趣旨は、対馬を訪れた旅行会社の関係者からの御意見というふうに察しております。韓国人旅行者にとって、対馬の最大の魅力は豊かな大自然と韓国との交流の歴史であると思っております。

韓国人旅行者を対象として実施したアンケートにおいてでございますけれども、旅行目的では、自然環境が41%、買い物が26%、韓日間の歴史が13%となっております。来島回数では、初めてが71%、2回が14%、3回以上が15%で、旅の満足度では、満足が68%、普通が28%、要は、普通以上が96%となっております。不満、わからないが各2%という結果でありました。

このアンケート結果が観光客約40万人の全ての意見を網羅しているとは思っておりませんが、一定の評価やデータとして参考資料になるものと思っております。

御意見のとおり、急激な観光客の増加に対して、観光施設や飲食施設など、ハード面の環境整備はまだまだ不十分な部分があると思っております。アンケート結果にあります満足以外の32%の意見を、いかに満足に少しずつでも変えてもらえる努力をしなければならないと思っております。

また、3割、4割と推測しております日帰り客対策と、2度、3度と来るリピーター率を上げていかなければならないと考えております。そのためには、ハード面の環境整備に加えて、宿泊、飲食、交通等の民間関連業者様の接客サービスの水準を高めることと、おもてなし観光が観光客にとっては最重要課題と認識しております。

対馬市民と韓国人観光客がお互いの文化や習慣の違いなどを理解してもらえるような取り組みや、各種交流イベントを今後も積極的・継続的に実施し、行政と関係団体及び民間事業者等が一

緒になって、おもてなし観光の取り組みを進めてまいりたいと思っております。そうすることによって、日帰り客が減少し、リピーター客がふえてくれば、安定的な韓国人誘客数、ひいては観光産業の発展にもつながるものと思っております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） アンケート結果の話と韓国サイドによる私の聞いた苦言と違いますか、こうあってほしいというふうなことがやや相反するところもあります。どちらも正解ではなかろうかと思えます。

それで、ちょっと市長にこの数字を話しますが、平成29年度の実績、これは対馬への入国の実数が約30万人に達するころの数字なんです、そのときのアンケートの調査によりますと、1泊2日あるいは日帰りが年間どのような比率になっておるかという数字が出ております。これは1,000人を超えた方々のアンケートの数字ですから、私は当たっていると思えますが、おおむねということを使うといいと思えます。

そうしますと、日帰りが29%という、私は、結構宿泊しているんだなという数字を見て、少しは安心したんですが、今年度の平成30年度の夏場、かなりバスに乗っている方が少ないとか、宿泊が幾らか昨年より減ったよというふうな声を、私は聞きまして、ある国の機関にどれだけの日帰り客の数字を把握しますかということで尋ねたら、いや、それは旅行会社そのものが旅券を確保する中で、そのチェックをせん限り正確な数字は出ませんという言い方をされましたが、実際、その現場で携わる者の感触として、おおむね5割は日帰り客の実数であろうというふうな見解を述べられたとき、ああ、対馬離れというのが少し入っているなというふうな気がいたします。日帰りという意味は、買い物に来るだけなんです。それも2つありまして、釜山のロッテの免税店で、若いお嬢様たちがバッグとか化粧品を買う。洋上で受け取る、このパターンと、対馬に来てから免税店やスーパーに行くかたち。

ですから、日帰りの力がどれだけのものがあるかといえば、宿泊の1泊2日に比べて、ほとんどないというふうな考えで私は見ておりますが、市長、その辺の見解はどう思われますか。私は、今の現実を、ことしと去年は違うということがじわじわ出てきているような数字が表に出ています。これをどう捉えているか、市長の見解を、できればお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず初めに、議員がどのような見解でそのような数字をある程度信用して持ってこられるかということについては、私自身、ちょっと疑問を持っているところでございます。

我々が、いろいろなデータに基づいて、今、分析をしていますのが、調査機関が平成29年の

8月1日から平成30年の2月の12日までの79日間にわたって、厳原港及び比田勝港でアンケートした1,085人の方のデータをもとにしたときには、日帰り客が30%、1泊2日が47%、そして、2泊3日が19%というようなデータになっているところがございます。

それとまた、今、観光バスに乗っているその韓国人観光客のお客さんが減っているんじゃないかという御意見でございましたけども、私自身感じる場所は、団体客が確かに減って、今、家族グループや若いお友達グループの方たちがふえてきているというようなことを実際に感じておりますので、観光バスに乗る方が減る分は、それは例えばレンタカーやサイクリング、そういったところに流れているのではないかというふうに私自身感じているところがございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 今おっしゃった話はあれじゃないですか。29年度には30%とおっしゃった。私は29%と言いました。これは市のつくった資料ですから、ほとんど変わらんから問題はないですよ。

問題は、ことしのことなんです。ことしのその50はどこから出たか。これはそのとおりなんです。私どもは、いい加減なことは言いませんので、それは国の機関の現場対応の中の話として、おおむねのことを、感触として非常に日帰りがふえとるというふうなことが申し上げました。だから、今、相反する話と言えそうですが、もう少しその辺を十分自信を持って実態を調査されて、よくよく厳原市内、あるいは、その他バスの関係者の実数がどう変わったか、これをきちんと把握されたらいいんじゃないでしょうか。この場所で、どっから出たんですか、その数字はという言い方ですが、私もちゃんと国の機関のお方の意見をもとに、そういうふうな動きがあっておるよというふうなことで確認をとっています。

それは、この場でどっから出たかという話じゃなくて、動きが変わっておることがもしあれば、非常に陰りが見えてくる一つのあらわれではないかという、日帰りという意味が、そういうふう

に思っております。

それと、もとに戻ります。時間があと20分しかありませんので、私もそろそろ次の方にバトンを譲らにゃいかんわけですが。いろいろ対馬のことをよく言わない言い方やある中でなぜそんな数字に、たくさん来るのかという、これを一つ、私は韓国の旅行会社の社長から直接聞いたんです。こういう物の言い方でございました。韓国民の多くは、日本の文化に接点を持つ特徴があると。日本の文化と申しますと、そのファッションであり、いろいろな生活にかかわる、関心がある一つの接点なんです。この外国旅行、釜山からわずか1時間ちょっとで日本に行かれる。そして、旅費は日帰りでわずかな金、1泊2日で3万円前後と。そういうふうな外国旅行でショッピングができて、満足度を高めるには、対馬が適当な場所であるから来ておるんだという言い方。

それと、船会社あるいは旅行会社のビジネスの勢い、これに乗じて行っているんですよという言い方を私は認識しておりますが、この点、どうですか。私は、今の格好は先々、宿泊というよりは物を買いに来る島になってはいけないという思いがあるんですが、市長、ちょっと、その辺の感じについて、何かあれば。今の現状。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 議員のほうが、この対馬の韓国人観光客に陰りが見えると御心配をしていただくことは、大変ありがたいことだというふうには思っておりますけども、私自身も、実は、ことし岡山県瀬戸内市のやっぱり朝鮮通信使の祭りのほうに参席させていただいたときに、神戸の総領事の方と席が隣同士になったときに、いろんなことを伺いました。やはり、議員おっしゃられるように、韓国の方たちは近い、そして安い、また、気軽な気持ちで対馬に行っている方が多いですよというようなことをおっしゃっておられました。

そしてまた、今後の国と国との関係、心配するところもあるわけでございますけども、そういう関係についてはいかがでしょうかというお話を伺ったところ、いや、国と国とはいろいろあっても、対馬に訪れる観光客にはそんなに影響は及ぼさないというふうに私は思いますよというような、そういうお話も伺ったところでございます。

しかしながら、要は、我々としましては、やっぱりおもてなし観光ということで、極力いろんな調査をいたしまして、改善できるところは改善しながら、韓国人の観光客の誘致の増大に向けて、力を合わせてまいりたいというふうに考えているところではございます。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 残り16分を関連質問の船越議員に渡しますので、時間の都合上、これで終わります。

○議長（小川 廣康君） 引き続き、清風会、7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一です。会派代表の淵上議員の韓国人観光客誘致の将来展望と対策、また、同僚議員の観光客の不満とその対策についての質問がされておりますが、私は、関連質問で積極政策の推進について、市長にお伺いをいたします。

日本全国の離島の中で、外国人観光客が30万人を超え年々増加している離島は対馬だけだと思います。この状況に満足することなく、危機感を持って積極的な政策を進め、満足度をアピールし、リピーターをふやしていかなければならないと思います。それには積極的な政策を打つ必要があると考えます。

そこで、市長にお伺いをいたします。

厳原構内にレストラン、カフェテラス、展望所、駐車場等、観光客また市民の憩いの場となる